

宮跡管理に関する調査研究

—平城宮跡兵部省（東）列柱表示等 修繕工事について—

はじめに 2024年度に文化庁によって平城宮跡兵部省（東）列柱表示等の修繕工事が実施された。本稿では、この工事に際して実施した木柱の劣化と修繕についての調査研究の内容を報告する。

工事の概要 この工事は、『紀要 2024』で報告した2023年度の兵部省（西）列柱表示修繕工事に続くものであり、兵部省地区のうち、みやと通りから東側の区域が対象である（図62・63）。今回の修繕は木柱や舗装等の経年劣化にともない、復旧を基本として実施された。事業主体、監理者、設計・設計意図伝達、工事監理、工事請負は昨年度と同様である。工事期間は2024年11月から2025年3月。工事範囲の面積は3,363㎡。工事費は54,670,000円。

当初の整備は、西側では1990年度に、東側では1991年度に奈文研が実施した。1991年度の工事では、壬生門から北上する宮内道路遺構と旗竿の復元も同時におこなっており、施工面積5,577㎡、総工事費86,308千円であった。その後、2013年度に兵部省において、文化庁が復元表示木柱改修を実施した。木柱に欠損や腐食部分がみられるため修繕されたが、当時の詳しい記録は確認できていない。それ以前の修繕の有無についても不明である。

今回の修繕の内容 全77本のヒノキの柱（直径24～36cm）および築地塀小口部分の交換、建物・築地塀・区画塀の壁の洗浄・再吹付、舗装部分の撤去・再舗装等が実施された。当初整備の仕様は東側と西側で共通であり、今回の修繕の仕様も西側と共通である。

木柱の劣化状況 当初整備で設置された柱の処理は兵部省と式部省で違いはなく、いずれもキシラデコール浸漬、側面をオイルペンキによる朱塗り、天端を黄色塗りとされた。原因は不明だが、兵部省は式部省よりも柱の劣化の進行が著しく、兵部省の中では東側のほうが西側よりも状態が悪い傾向がみられた。特に柱頭部と地際部の劣化が激しい。東側では20本以上の柱が傾倒し、大破した柱も1本あった。2019年度の劣化状況調査¹⁾では公園長寿命化指針²⁾にもとづき、兵部省の建物は健全度「C（全体的に劣化が進行している）」、緊急度「高」、式部省の建物はそれぞれ「B（全体的に健全だが、部分的に劣化

が進行している）」「低」と判定されている。

兵部省東側では、西側に見られなかった小修繕の跡が確認された。柱の頭部は特に劣化が著しく、板材と塗料を用いて修繕されていた。ほとんどの柱の天端には1mmほどの厚さで薄橙色の塗料が塗られていた。直接木部に塗られたものが多く、これは兵部省西側でも見られたものであり、現在の式部省も同様である。これらは健全な状態のものもあったが、多くは木部の割れにともなって亀裂が生じ、部分的に消失しているものもあった（図64）。それ以外に、4本の柱では薄い板状のモルタルで天端の全面が覆われ塗装されていた。その他、頭部を高さ5cmほど切断し、新たな木材に交換したのものもあった（図65）。頭部の内側が深く腐朽し、厚さ数cm、幅20cmほどの正方形または円形の板が埋められていた柱もあり（図66）、修繕は腐朽が著しく進んだ後に実施されたようである。5本の柱は、地際部が高さ5cmほどまで根継ぎされていた（図65）。

北面大垣の現況 兵部省東側と同じく1991年度に整備された平城宮跡北面大垣地区では、2016年度に掘立柱塀の遺構表示の修繕工事が実施され、直径30cm、地上部高さ75cmの木柱7本が交換された。柱は地下に深さ25cmほど埋められた構造で、背割りが入れられ、防腐防蟻剤としてアリピレス木部乳剤20が浸透処理された。8年が経過した現況は、柱頭部に黒い汚れがみられ、全体に朱塗りが退色している。木部には亀裂があるが劣化はあまりみられない。

木柱の計画的修繕 今回交換された柱は、^{ひかりつ}光付けの後に保存剤（ペンタキユアECO30同等以上）の加圧注入処理が施され、側面はアクリル樹脂系非水分散形塗料で朱塗り、天端はポリウレタン樹脂（ターペン可溶2液形）で黄色に塗装された。

自然公園では、屋外に木製の施設が設置されており、環境省がそれらの長寿命化について指針を出している³⁾。それには、表面処理用木材保存剤は定期的に再塗装することが望ましく、「塗布範囲は地際から±15cm程度とする」「耐用年数の延長は現実的には2～3年程度」と説明されている。一般にヒノキの保存処理材の耐用年数は、表面処理材を用いたメンテナンスを併用した場合、15年から20年である²⁾。往時の形態を部分復元した兵部省の木柱は、風雨や太陽光の直接的な影響を受けるため、定期的な表面処理の実施が望ましい。また、同一

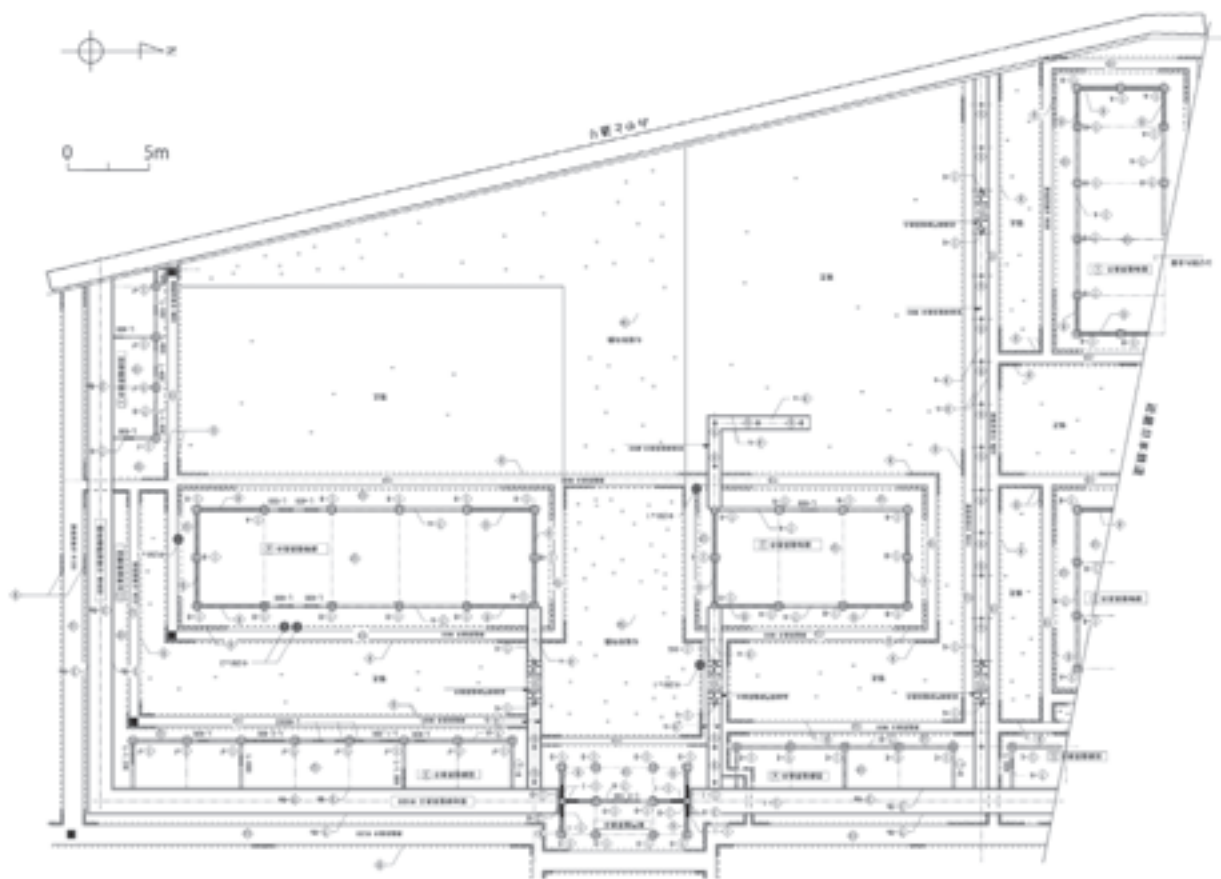


図62 兵部省（東）列柱表示等修繕工事範囲



図63 兵部省（東）修繕工事前（2024年4月撮影）



図64 柱頭部の過去の修繕箇所の劣化状況

仕様の場合でも劣化進行速度に差異が生じることに留意する必要があり、劣化が著しくなる前に点検と部分修繕をすることが効果的であると考えられる。

正殿の表示 兵部省の正殿は整備後の発掘であきらかとなったため表示（部分復元）されていない。解説サインのイラストに正殿を示しているが、今後の再整備では正殿の表示について考慮する必要がある。（中島義晴）

註

- 1) 文化庁『特別史跡平城宮跡整備計画（中期計画）策定業務報告書』2020。
- 2) 国土交通省『公園施設長寿命化計画策定指針（案）【改訂版】』2012、2025改定。
- 3) 環境省『自然公園等施設技術指針』2013制定、2022改定。第2部「共通事項」第3章「施設の長寿命化」に説明がある。



図65 柱頭部と地際部の過去の修繕



図66 柱頭部内側の過去の修繕